

# 令和三年度 奈良県教育長賞

## 本当の意味

西大和学園高等学校 一年 小島 伸介

「日本が金メダル！」

過去最高の二十七個の金メダルを取るという、日本代表の金メダルラッシュに大きな盛り上がりを見せた東京オリンピック。僕もいろいろな競技を観戦し、たくさんの感動と元気をもらった。

そのような中、連日、様々な競技の速報や日本代表のメダルのニュースが飛び込んできた中に、一つ僕の目を引いたニュースがあった。それは、東京オリンピックの開催には約四兆円もの税金が使われているというニュースだ。僕は正直、オリンピックを当たり前かのように見てしまっていたが、それだけのお金が必要だとは知らなかった。オリンピックの開催は大変なことなのだと言感させられた。

そして、僕は今まであまり税について考えたことがなく、知識もほとんどなかったのでこのままではだめだという焦燥感に駆られ、このニュースを見たことをきっかけに税について色々調べてみた。調べてみるとやはり知らないことがたくさん出てきたが、その中でも特に印象深かったのが「税」という言葉の語源だ。

そもそも「税」という言葉の語源は一説ではあるが、「穀物を無事収穫できたことに対して、そのよろこびを皆で分かちあいましょう」ということらしい。また、「支え合う」というニュアンスも含まれているようだ。要するに、税は語源通りにいくと、「みんなで支え合うためのよろこんで払うべきもの」ということになるだろう。

しかし、一体どれほどの人が税を「よろこんで」払っているだろうか。消費税増税の時期になると必ずと言っていいほど反対の声が出るし、昨今脱税のニュースを耳にすることも少なくないように、日本では税はあまり良いイメージを持たれていないように思われる。

だが、税に疑問や不信感を抱いたときこそ僕のように改めて税とは何なのかについて調べ、知ってほしいと思う。語源にもあるように、税はみんなで「支え合う」ためにあるのだ。自分が払った税がどこかで誰かの助けになると考えたら「よろこんで」払おうという気持ちにならないだろうか。僕は日々懸命に努力しているアスリートの方々が人生をかけて目指すオリンピックを「支える」ためなら「よろこんで」払えるなと思った。

これからもオリンピックなどのようにみんなが「よろこんで」払おうと思えるような目的で税金が使われてほしいし、自分が納税者となったとき、「よろこんで」しっかりと税を納めていきたいと思う。